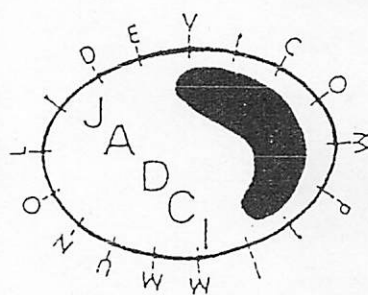


# J A D C I News

NO. 9  
1995. 3. 24



The Japanese Association  
for Developmental and  
Comparative Immunology

Office: Department of Anatomy, Dokkyo  
University School of Medicine, Mibu,  
Tochigi 321-02

## 日本比較免疫学会第7回学術集会を迎えて

高知大学農学部

楠田理一

1995年を迎え、会員の皆様には益々ご活躍のことと拝察申し上げます。

さて、本年8月23日13時から25日12時までの3日間の日程で、標記の学術集会が高知市の共済会館で開催されることになり、私どもの高知大学農学部水族病理学講座が、お世話をさせていただくことになりました。会場には、大学の講義室を使用しようかとも考えたのですが、南国土佐の夏の暑さを避けるためにも、会員相互の交歓の実を挙げるためにも、会場・宴会・宿泊のすべてをまかなえる共済会館を会場に当てることにいたしました。会場の共済会館は公官庁街のまんなかに位置し、高知市のシンボル高知城の真下にありますので、会場の窓越しに城を眺めながら、集会を楽しむことができるのではないかと期待しております。

高知市は人口32万の県都で、観光の拠点として、高知城や桂浜などの全国的に有名な観光地が多くあります。市の中央の小高い山の上に建つ高知城は、山内一豊が約10年の歳月をかけて築いた全国でも数少ない古城の一つです。天守閣からの眺望や、城内懐徳館での歴史資料の見学が楽しめます。300余年の歴史をもつ土佐の日曜市は、高知城大手門から東に向かって伸びるフェニックス並木の1.5キロの区間に、出店数約600店が軒を並べる日本一の規模と歴史を誇る市路市です。新鮮な野菜や果物、寿司、薬草、植木から骨董まで、あらゆるものが売られており、その賑わいの中を歩くだけでも土佐を感じることができます。また、シャガールを中心とした美術コレクションの県立美術館、はらたいらと世界のオルゴール館、紙の博物館、自由民権記念館、県立歴史博物館があります。高知市内を一望できる県立自然公園五台山には、牧野富太郎の偉業をたたえる牧野植物園や、四国霊場三十一番札所の竹林寺もあります。なお、高知県を代表する観光地といえば名勝桂浜で、坂本

龍馬像、坂本龍馬記念館、水族館、闘犬センターなどの観光ができます。少し足を延ばせば、日本三大鍾乳洞のひとつで、国の特別天然記念物および史跡の龍河洞もたのしめます。

高知までの交通は、空の便を使って、東京からは1時間10分、名古屋・福岡・宮崎からは約1時間、大阪からは40分です。海からなら、東京とを結ぶ「さんふらわあ号」、大阪とを結ぶ「高知大阪特急フェリー」があります。列車とバスなら、岡山と高知をつなぐ便で2時間30分です。高知へのルートは、皆様それぞれの旅のプランにあわせておいで下さい。

夜の部では、二夜にわたって土佐ならではのとれたての新鮮な海の幸、山の幸を活かした豪快な皿鉢料理でお迎えいたします。美酒嘉肴、土佐の地酒をかたむけながら、楽しくにぎやかに懇談いたしましょう。微力ですが、最善を尽くしてお迎えいたしたく存じます。

会員の皆様が多数ご参加下さいますよう、お待ち申し上げております。

## 第6回学術集会に参加して

鹿児島大学医学部医動物学教室 野田伸一

日本比較免疫学会の第1・2回学術集会は参加したのですが、その後は毎年学術集会の時期に海外出張が重なり参加できませんでした。今回は関係者に無理を言って海外出張の日程を変更し学術集会に参加しました。あまり熱心な会員ではないので、少し後ろめたい気持ちで書いております。

九州育ちの私にとって東北地方はあまり縁がなく、東北地方を訪れたのは過去2回だけ、それも学会出席のためだった。おまけに、小学生の時から地理歴史が不得意であったために東北地方に関する知識はほとんど持ち合わせていない。かろうじて覚えているのはいつも地理のテストに出ていたリアス式海岸と岩手県が都道府県で2番目に広い県であることぐらいである。鹿児島に転勤してきた福島出身の人が『福島県には海がないと思っている人が多いんだ』と嘆いた時に、私もそう思っていたことをいいそびれてしまったことがある。もし今回の学術集会に行かなければ一生リアス式海岸を見れないような気がして、今年の学術集会に参加することを決めた。すぐに本屋さんで観光案内書と時刻表を買ったが、1,300円も払った観光案内書には三陸町のことは何も書かれていなかった。観光のために三陸町に行くのではないと自分に言い聞かせ、次に三陸町へ行く経路を決めることにした。鹿児島に赴任してから学会へは空路で行くことが多くなり、このまえ列車時刻表を調べたのがいつだったか良く覚えていなかった。時刻表の小さな字が読み辛くなったことにショックを受けながら何とか経路をきめた。

飛行機を名古屋で乗り継ぎ花巻きに行き、釜石経由の鉄路で夕方には三陸町に着くことができた。学術集会初日はDr. GotzとDr. Zepataの特別講演であった。私が貝の生体防御の研究を外国で始めたとき最初に買った無脊椎動物免疫に関するの2冊の本に総説を書いておられたのがDr. Gotzであり、その講演を聞きながら外国での研究生活が脳裏に甦ってきた。二日目からの一般講演は北里水産学部で行われ、宿舎（宴会場？）となった銀隣

荘からバスで会場まで送ってもらった。曲がりくねった道を通り、バスの窓から水産学部の建物が見えたときには東京ディズニーランドのシンデレラ城を見た以上の感動を覚えた。アメリカでは小さな町に大学があるのを見たことがあったが、それと同じ光景が日本にあるとは考えもしなかった。銀隣荘で同室となった楠田先生がこの大学の運営や学生の生活などについて話をしてくださった。20年以上も前にこのような大英断がなされたことに驚くと同時に、新しい大学の在り方を見たような気がした。国際性をそなえ、型にとらわれない日本比較免疫学会にふさわしい会場であった。学術集会を終えとても幸せな気分で帰路に着くことができたのは、手にさげた帆立貝と海鞘のせいだけではなかったような気がしている。

最後に、学術集会の運営や会員のお世話をしてくださった北里大学水産学部の方々に深く感謝し、益々のご発展をお祈りいたします。

## 『楽しみな特別講演』

獨協医科大学 総合研究施設 山口 恵一郎

第七回日本比較免疫学会 (JADCI) 学術集会は、ご存知のように南国は高知で催されることになっています。高知大の楠田理一先生の下で着々と準備が進められていることは、事務局の隣の住人であり、役員の末席に一応加えていただいている私のところにも先生の熱意が伝わってきています。

さて、本集会に参加する者にとっての楽しみの一つに、特別講演や招待講演があるのではないかと思います。魅力ある企画が例年なされていると感じている向きも多いのではないかと思います。学術集会長が、あるいは役員が、または会員が事務局にプランを持ち込むことから始まり、学術集会長、学会会長、事務局との間で何回かのやりとりがあって少しずつ具体化して行くのが多いようです。会員誰もが提案すれば、夢が実現する可能性があるというのが本学会の良さではないでしょうか。

第七回学術集会の特別講演は、矢野友紀先生 (九大・農) と中西照幸先生 (養殖研・病理) にお骨折りいただいて、オランダは Wageningen Agricultural 大学の Muiswinkel 教授にお願いすることになりました。Muiswinkel 教授といえば、昨年夏の第六回 ISDCI 学会の大会委員長の任にあった方で、いつもは数名しか参加しない国際学会に15名もの JADCI 会員が Wageningen に押し掛けて随分と世話になったという縁もあります。私も非力を省みずに参加したのですが、Wageningen の思い出は限りなくあります。とにもかくにも、日本と全く同じように猛烈に暑かったということに尽きます。北国ゆえに会場の冷房は乏しく、宿舎に冷房なぞなく、おまけに日没が夜9時30分頃とあっては、JADCI 会員の習性の当然の帰結としてビールについ手が出てしまい、もうあとはガブ飲みとなりました。その結果、さらに発汗作用が進み、全員が夜中に衣類の洗濯に励む羽目に陥ったことでした。Muiswinkel 教授は高知に来訪された時に去年のことを思い出して、「ここはとても涼しいですね」とおっしゃるに違いないと私は思うのです。

## Muiswinkel 教授のプロフィール

養殖研究所 中西照幸

[氏名及び所属] Willem B. van Muiswinkel, Professor of Department of Experimental Animal Morphology and Cell Biology, Wageningen Agricultural University

[略歴] 1942年オランダのハーグにて生まれる。1967年 Free 大学にて修士号を取得。1967-69年：Rijswijk TNO 医学生物学研究所にて *in vitro* 免疫応答におよぼす放射線照射の影響について研究。1969-75年：Erasmus 大学の助手として細胞生物学及び遺伝学の研究に従事。Erasmus 大学で学位を取得 (subject: T cells and the humoral immune system)。1975-85年：ワーゲニンゲン農業大学実験動物形態学・細胞生物学科助教授として魚類免疫の研究に従事。1985-現在：同上学科教授として、魚類免疫学及び疾病抵抗性の遺伝学研究を指導。この間、いくつかの国際魚類免疫学会のオーガナイザーを勤められ、昨年度オランダで開催された国際比較免疫学会の大会委員長を引き受けられたことは皆様も良くご存じと思う。また、DCI, Vet. Immunol. Immunopathol., Fish & Shell Fish 等の Editorial Board のメンバーとして、この分野の世界的な指導者として活躍されている。

1983年の第5回国際免疫学会が京都で開催された折、Dr. N. Cohen からマシケルを知っているかと聞かれたが、スベルを書いてもらってやっと判り、あのムイズウインケルさんですかと発音して笑われてしまったことがある。しかし、私はその後も話しをするときは別として、手紙を書くときは必ずムイスウインケルと発音しながら書くことにしている。ちなみに意味はネズミ小屋だそうである。

Muiswinkel 教授は、これまで基礎と応用の両面からコイを用いて、一貫して魚類免疫の研究に従事してこれらた。応用面においては、魚類ワクチンの開発をめざして、投与経路に伴う細菌や寄生虫抗原に対する免疫応答や浸漬

免疫における抗原の取り込み機構に関する研究に取り組んでこられた。また、抗生物質（特に OTC）の多用が耐性菌の誘導や薬剤残留といった問題だけでなく、魚類の免疫応答を抑制することを明らかにした。さらに、疾病抵抗性魚種の開発をめざして、クローンのコイの作出法を確立するとともに、疾病抵抗性の遺伝的変異の研究も進めている。

一方、基礎研究面においては、モノクローナル抗体を用いた魚類のリンパ球の分離、同定をいち早く始められると共に、サイトカインの分子、遺伝子レベルの研究、MHC 遺伝子の単離と発現等、同学科の Dr. E. Egberts のグループと共に現在の魚類免疫学研究の核心に触れる研究を推進している。今回の招聘を引き受けられた九州大学農学部の矢野教授は 1 年間ワーゲニンゲン大に滞在し、コイの補体について共同研究をされた。私は 10 年前にイギリスに留学していた際、Muiswinkel 教授の研究室を訪問する機会を得、その時初めて講演して謝金なるものを頂いた。学位を取得して間もない若者を一人前の研究者として遇してくれたことに大変感激したことを覚えている。上の 2 人のお子さんは既に独立され、現在は一番下のお嬢さんと奥さんの 3 人で Wageningen の郊外の緑に囲まれた住宅地に住んでおられる。一昨年、先生のお宅に 3 日間程泊めていただいたが、ネズミ小屋どころではなく、前後に広い庭が付いた 2 棟続きの典型的なオランダの家でした。



## 第6回日本比較免疫学会総会議事録

日時：1994年8月29日（午後5時30分より）

会場：銀鱗荘（岩手県気仙郡三陸町越喜来）

出席者：50名（欠席役員：野本亀久雄）

学会長開会の挨拶（村松 繁）

学術集会会長の挨拶（神谷 久男）

### 報告事項

#### 1) 決算報告（友永 進）

庶務・会計の古田 恵美子役員が欠席のため替わって報告する旨の挨拶の後、決算報告がなされた。

(1)現在の会員数は196名で、その内今年度分の年会費を納めた会員が非常に少ないので、なるべく速やかに納入して戴きたい。

(2)平成5年度の総収入は712,504円であった。支出総額466,338円の支出内訳はJADCI News及びProceeding印刷代金が276,740円で次に高額支出としては通信費(167,904円)であった。

#### 2) 会計監査報告（渡辺 浩）

会計監査の結果、平成5年度の経理が公正に行なわれている旨の報告がなされ、拍手によって平成5年度の決算報告が承認された。

#### 3) 会務報告（友永 進）

(1)JADCI Newsに関しては、平成5年度に2回発行され、平成5年10月26日発行のNo.7では黒澤 良和、渡辺 翼、沢田 知夫、和合 治久の各先生方に御寄稿を戴き、平成6年2月16日発行のNo.8では友永 進、神谷 久男、渡辺 浩の各先生方より御寄稿を戴き予定どうり発行することが出来た。

(2)会長選挙の結果は、既にJADCI News No. 8に報告されている通りで、村松 繁現会長が再選された。なお、任期は1996年3月末日である。

(3)第7回日本比較免疫学会学術集会は高知大学・農学部の楠田 理一先生を学術集会会長として平成7年8月23日から8月25日の日程で開催される。

(4)第8回の学術集会(平成8年)は埼玉医科大学・短期大学の和合 治久 先生が主催される事が役員会で決まった。

(5)学術情報センターによる学会講演要旨のデータベース化に関して学会としてこれに参加する方向で現在検討を進めている。これはDCI掲載の英文抄録との係わりもあるので、まず出版社(Pergamon Press)の承認を得たい。可能であれば来年度を目処に参加を目指したい。なお、これに関しては、田中 邦男抄録委員が折衝に当たる。

(6)学術集会の英文抄録を学会前に速やかに集め、学術集会終了後なるべく早い時期にDCIに掲載したいので、会員各位の協力をお願いしたい。なお、編集上の理由で発行が遅れていた4thと5thJADCIの英文抄録は次号のDCIに掲載される予定である。

#### 4) ISDCI関連の報告(友永 進)

1994年7月31日-8月5日会期でオランダ国Wageningenで開催されたISDCI(国際比較免疫学会)会議の役員会、総会及び編集委員会の概要として下記の様な報告がなされた。

(1)ISDCIの会員数は約400名。

(2)第7回のISDCI会議(1997年)は米国・バージニア(Prof. S. Kaattari)で開催される事が決定した。

1. 1990年10月1日以前，在北京市区范围内，凡持有北京市公安局颁发的《北京市机动车辆行驶证》的机动车辆，其所有人或管理人，均须向北京市公安局交通管理部门申领《北京市机动车辆安全技术检验合格证书》。

2. 凡持有《北京市机动车辆安全技术检验合格证书》的机动车辆，其所有人或管理人，在申领《北京市机动车辆行驶证》时，必须向北京市公安局交通管理部门提供《北京市机动车辆安全技术检验合格证书》。

3. 凡持有《北京市机动车辆安全技术检验合格证书》的机动车辆，其所有人或管理人，在申领《北京市机动车辆行驶证》时，必须向北京市公安局交通管理部门提供《北京市机动车辆安全技术检验合格证书》。

4. 凡持有《北京市机动车辆安全技术检验合格证书》的机动车辆，其所有人或管理人，在申领《北京市机动车辆行驶证》时，必须向北京市公安局交通管理部门提供《北京市机动车辆安全技术检验合格证书》。

5. 凡持有《北京市机动车辆安全技术检验合格证书》的机动车辆，其所有人或管理人，在申领《北京市机动车辆行驶证》时，必须向北京市公安局交通管理部门提供《北京市机动车辆安全技术检验合格证书》。

6. 凡持有《北京市机动车辆安全技术检验合格证书》的机动车辆，其所有人或管理人，在申领《北京市机动车辆行驶证》时，必须向北京市公安局交通管理部门提供《北京市机动车辆安全技术检验合格证书》。

7. 凡持有《北京市机动车辆安全技术检验合格证书》的机动车辆，其所有人或管理人，在申领《北京市机动车辆行驶证》时，必须向北京市公安局交通管理部门提供《北京市机动车辆安全技术检验合格证书》。

(3)Journal:DCIの編集状況：

- \*最近の採択率は約70%である。
- \*掲載決定から印刷までの期間が以前より早くなった。
- \*Impact Factorが1を越えるようになった。
- \*現状では原稿不足の傾向にある。
- \*特に日本からの投稿数が最近激減した。

5) 平成7年度学術集会会長の楠田 理一先生より、次期学術集会に関する案内と挨拶があった。

日本比較免疫学会第7回学術集会の会場及び  
宿泊場所の変更について

第7回学術集会展長  
楠田理一

標記の件について会場及び宿泊場所を、宿泊の都合で下記の通り高知会館から高知共済会館へ変更致しましたのでお知らせします。

なお、高知共済会館の宿泊は、8月22日にシングル10室、23日と24日はシングル24室・ツイン12室及び和室1室、25日はシングル5室を確保してあります。同会館に宿泊御希望の方は先着順に申し受け致しますので、下記の宿泊申込先にお申し出下さい。

記

日時：1995年8月23日（水）13:00～8月25日（金）12:00

場所：高知共済会館会議室（市町村職員共済組合）

高知市本町5丁目3-20 ☎ (0888) 23-3211

高知空港よりリムジンバスで30分播磨屋橋下車、市電で県庁前  
下車、JR高知駅より市電で県庁前下車

日程： 8月23日（水） 総会（13:00 から）、一般講演など

8月24日（木） 一般講演、懇親会など

8月25日（金） 一般講演など（12:00 解散）

高知共済会館宿泊申込先： 〒783 高知県南国市物部乙200

高知大学農学部 楠田理一

TEL (0888) 64-5147

FAX (0888) 64-5197